

花き類・観葉植物

立枯病

留意事項

- 1 QoI剤< 1 1 >は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 被害株は根周りの土とともに、ほ場外に持ち出し処分する。
- 2 被害植物残渣や未熟な有機質は土壌に混入せず、完熟した有機物を施用する。
- 3 密植を避け、株元の通気を良好にする。
- 4 土壌消毒を行う。(XⅢ土壌消毒 参照)
 - ・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 <—>
【20～30kg/10a は種または植付前/1回】
 - ・ [キルパー](#) <—>
【立枯病(リゾクトニア菌)・立枯病(フザリウム菌) 原液として60L/10a
所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する
は種または定植の15日前/1回】
【立枯病(フザリウム菌) 原液として60L/10a
予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布またはかん水する
は種または定植の15日前/1回】
- 5 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [オーソサイド水和剤80](#) <M4>
【花き類・観葉植物(除ばら、りんどう、せんいちこう、コスモス、ひまわり、シネウリア、
スイトピー、みやこわすれ、アンスリウム、斑入りアマドコロ) 600倍 —/8回】
- 6 発生を認めたら下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ユニフォーム粒剤](#) < 1 1 > < 4 >
【花き類・観葉植物(除きく、トルコギキョウ) 立枯病(リゾクトニア菌)
18kg/10a 土壌表面散布 定植時または生育期/3回】
 - ・ [リゾレックス水和剤](#) < 1 4 > 【500～1000倍 土壌かん注 3L/m² 生育期/5回】

苗立枯病

防除方法

- 1 被害株は根周りの土とともに、ほ場外に持ち出し処分する。
- 2 被害植物残渣や未熟な有機質は土壌に混入せず、完熟した有機物を施用する。
- 3 密植を避け、株元の通気を良好にする。
- 4 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [オーソサイド水和剤80](#) <M4>
【花き類・観葉植物(除ばら、りんどう、せんいちこう、コスモス、ひまわり、シネウリア、
スイトピー、みやこわすれ、アンスリウム、斑入りアマドコロ) 600倍 —/8回】

黒斑病

防除方法

- 注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
- 注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 1 連作を避け、前年の被害残渣を集めて処分する。
- 2 チッソ質肥料の多施用を避け、密植や過繁茂にならないようにし、風通しをよくするよう管理する。
- 3 排水を良好にし、土壤水分が高くないようにする。
- 4 被害葉は早めに取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ポリオキシシンAL水溶剤](#) <19> 【2500倍 発病初期／8回】

白絹病

留意事項

- 1 SDHI剤<7>は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 連作を避け、他の作物と輪作をする。
- 2 土壤の表面を乾燥させる。
- 3 土壤に石灰を施用してなるべくpHを高くする。
- 4 被害株は株元の土とともにほ場外に持ち出し処分する。
- 5 土壤消毒を行う。(XⅢ土壤消毒 参照)
 - ・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 <—>
【20～30kg／10a は種または植付前／1回】
- 6 発生を認めたら下記の薬剤を施用する。
 - ・ [リゾレックス水和剤](#) <14> 【500～1000倍 株元かん注 3L／㎡ —／5回】
 - ・ [モンカットフロアブル40](#) <7> 【1000～2000倍 株元散布 —／3回】

灰色かび病

留意事項

- 1 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 2 SDHI剤<7>、QoI剤<11>は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 収穫後の作物残渣は適切に処分する。
- 2 施設栽培では、施設内が多湿とならないようにする。
- 3 密植を避け、通気を良好にする。
- 4 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 5 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [チオノックフロアブル](#) <M3>
【花き類・観葉植物(除りんどう) 500倍 発病初期／6回】
 - ・ [セイビアーフロアブル20](#) <12>
【花き類・観葉植物(除きんせんか、ホワイトレースフラワー) 1000倍 発病前～発病初期／4回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [フルピカフロアブル](#) <9>
【花き類・観葉植物(除ばら、スターチス、宿根かすみそう、ゆり、りんどう)
2000～3000倍 発病初期／5回】
 - ・ [サンヨール](#) <M1>
【花き類・観葉植物(除きく、ばら、ペチュニア、スターチス、プリムラ、パンジー)
500倍 発生初期／8回】
- 6 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
- ・ [アフエットフロアブル](#) <<7>>
【花き類・観葉植物(除きく、ゆり、チューリップ、りんどう) 2000倍
発病初期／3回】
 - ・ [ファンタジスタ顆粒水和剤](#) <<11>>
【花き類・観葉植物(除きく、トルコギキョウ) 3000倍 発病初期／5回】
 - ・ [ゲッター水和剤](#) <10> <1>
【花き類・観葉植物(除ひまわり、ゼラニウム) 1000倍 ー／5回】
 - ・ [ポリオキシAL水溶剤](#) <19> 【2500倍 発病初期／8回】
 - ・ [ピクシオDF](#) <17> 【2000倍 発病初期／4回】
- 7 暖房機ダクトが設置されている施設内ではダクト内投入による処理法も有効である。(Ⅻ省力安全防除 2ダクト内投入 参照)

うどんこ病

留意事項

- 1 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 2 SDHI剤<<7>>は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 日照不足に注意し、適正な施肥によって過繁茂にならないように管理する。
- 2 被害茎葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 3 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ダコニール1000](#) <M5>
【花き類・観葉植物(除ばら、きく、チューリップ、ゆり、りんどう) 1000倍
発病前～発病初期／6回】
 - ・ [エコピタ液剤](#) <ー> 【100～200倍 発生初期／ー】
 - ・ [サンクリスタル乳剤](#) <ー> 【600倍 ー／ー】
 - ・ [カリグリーン](#) <NC> 【花き類・観葉植物(除きく) 800倍 発病初期／ー】
 - ・ [サンヨール](#) <M1>
【花き類・観葉植物(除きく、ばら、ペチュニア、スターチス、プリムラ、パンジー)
500倍 発生初期／8回】
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アフエットフロアブル](#) <<7>>
【花き類・観葉植物(除きく、ゆり、チューリップ、りんどう) 2000倍
発病初期／3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [アンビルフロアブル](#) <3>
【花き類・観葉植物(除ばら、きく) 1000倍 発病初期／7回】
- ・ [トリフミン水和剤](#) <3>
【花き類・観葉植物(除ばら、きく) 3000倍 発病初期／5回】
- ・ [パンチョTF顆粒水和剤](#) <U6> <3> 【2000倍 —／2回】
- ・ [モレスタン水和剤](#) <M10>
【花き類・観葉植物(除カーネーション) 2000～3000倍 発病初期／10回】

菌核病

防除方法

- 1 連作を避ける。
- 2 被害茎葉などの残渣は集めてほ場外に持ち出し処分する。
- 3 茎葉が過繁茂にならないように管理する。
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
- ・ [トップジンM水和剤](#) <1>
【花き類・観葉植物(除トルコギキョウ) 1500倍 —／5回】

株腐病

防除方法

- 1 健全な種苗を用いる。
- 2 被害株は根周りの土とともに、ほ場外に持ち出し処分する。
- 3 被害植物残渣や未熟な有機質は土壌に混入せず、完熟した有機物を施用する。
- 4 密植を避け、株元の通気を良好にする。
- 5 土壌消毒を行う。(XⅢ土壌消毒 参照)
- ・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 <—>
【20～30kg／10a は種または植付前／1回】
- 6 発生を認めたら下記の薬剤を施用する。
- ・ [リゾレックス水和剤](#) <14> 【500～1000倍 土壌かん注 3L／㎡ 生育期／5回】

茎腐病

防除方法

- 1 健全な種苗を用いる。
- 2 被害株は根周りの土とともに、ほ場外に持ち出し処分する。
- 3 被害植物残渣や未熟な有機質は土壌に混入せず、完熟した有機物を施用する。
- 4 密植を避け、株元の通気を良好にする。
- 5 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
- ・ [オーソサイド水和剤80](#) <M4>
【花き類・観葉植物(除ばら、りんどう、せんいちこう、コスモス、ひまわり、シネリリア、スイトピー、みやこわすれ、アンスリウム、斑入りアマドコロ) 600倍 —／8回】
- 6 発生を認めたら下記の薬剤を施用する。
- ・ [リゾレックス水和剤](#) <14> 【500～1000倍 土壌かん注 3L／㎡ 生育期／5回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

アザミウマ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 施設栽培では、開口部を防虫ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。
- 2 ほ場内外の除草を行う。
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ディアナSC](#) <5>
【花き類・観葉植物(除りんどう) 2500～5000倍 発生初期／2回】
 - ・ [アフーム乳剤](#) <6> 【2000倍 発生初期／5回】
 - ・ [ジェイエース水溶剤](#) <1B>
【花き類・観葉植物(除ばら、きく) 1000倍 発生初期／5回】
 - ・ [オンコル粒剤5](#) <1A>
【花き類・観葉植物(除きく、ストック) 6kg／10a 株元散布 生育期／3回】
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤 劇](#) <4A>
【花き類・観葉植物(除ストック、りんどう) 2000倍 発生初期／5回】

カメムシ類

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アディオン乳剤](#) <3A>
【花き類・観葉植物(除はばたん) 2000倍 発生初期／6回】

コナジラミ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 ほ場内や周辺の除草を徹底する。
- 2 収穫後の作物残渣は適切に処分する。
- 3 施設栽培では、開口部に目合いの細かい防虫ネットを展張し、成虫の侵入を防ぐ。
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を施用する。
 - ・ [スタークル粒剤、アルバリン粒剤](#) <4A>
【花き類・観葉植物(除きく、ガーベラ) 1g／株(30kg／10aまで) 植穴土壌混和 定植時／1回】
 - ・ [スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤](#) <4A>
【花き類・観葉植物(除きく) 2000～3000倍 発生初期／5回】
 - ・ [コルト顆粒水和剤](#) <9B>
【花き類・観葉植物(除チューリップ) 4000倍 発生初期／4回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

—花き類・観葉植物—

- ・ [ディアナSC](#) <5> 【花き類・観葉植物(除りんどう) 2500倍 発生初期／2回】
- ・ [エコピタ液剤](#) <—> 【100～200倍 発生初期／—】
- ・ [カルホス乳剤](#) **劇** <1 B>
【花き類・観葉植物(除きく、ガーベラ、シクラメン、アジアンタム)
オンシツコナジラミ若齢幼虫 1000倍 発生初期／4回】
- ・ [ラノーテープ](#) <7 C>
【花き類・観葉植物(施設栽培) 50m²／10a 作物体の付近に設置する
栽培期間中／1回】

アブラムシ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 2 ダントツ粒剤の成分クロチアニジンの総使用回数は4回以内。

防除方法

- 1 施設栽培では、開口部を目合い0.8mm以下のネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。
 - 2 ほ場内外の雑草を除去する。
 - 3 発生を認めたら下記の薬剤を施用する。
- ・ [スタークル粒剤](#)、[アルバリン粒剤](#) <4 A>
【花き類・観葉植物(除きく、ガーベラ) 1g／株(30kg／10aまで) 植穴土壌混和
定植時／1回】
【花き類・観葉植物(除きく、ガーベラ) 20kg／10a 株元散布 生育期／5回】
 - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) <4 A>
【花き類・観葉植物(除きく) 2000～3000倍 発生初期／5回】
 - ・ [ダントツ粒剤](#) <4 A>
【花き類・観葉植物(除きく) 6kg／10a 生育期株元散布 発生初期／4回】または
【花き類・観葉植物(除きく) 1～2g／株 生育期株元散布 発生初期／4回】
 - ・ [アディオン乳剤](#) <3 A>
【花き類・観葉植物(除はぼたん) 2000～4000倍 発生初期／6回】
 - ・ [コルト顆粒水和剤](#) <9 B>
【花き類・観葉植物(除チューリップ) 4000倍 発生初期／4回】

コナガ

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
- ・ [エスマルクDF](#) <1 1 A> 【1000倍 発生初期／—】

オオタバコガ

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合がありますので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

防除方法

- 1 若齢幼虫のうちに防除する。
- 2 施設や簡易パイプ組みにより目合い4mm以下のネットで被覆し、成虫の飛来を防ぐ。
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アファーム乳剤](#) <6> 【1000倍 発生初期／5回】
 - ・ [プレオフロアブル](#) <UN> 【1000倍 発生初期／4回】
 - ・ [ディアナSC](#) <5>
 - 【花き類・観葉植物(除りんどう) 2500～5000倍 発生初期／2回】
 - ・ [フェニックス顆粒水和剤](#) <28>
 - 【花き類・観葉植物(除きく、りんどう) 2000倍 発生初期／4回】
 - ・ [アクセルフロアブル](#) <22B>
 - 【花き類・観葉植物(除きく) 1000倍 発生初期／6回】
 - ・ [エスマルクDF](#) <11A> 【1000倍 発生初期／—】

ネキリムシ類

防除方法

- 1 被害株の周りを掘り、幼虫を捕殺する。
- 2 定植時に下記の薬剤を施用する。
 - ・ [カルホス微粒剤F 劇](#) <1B>
 - 【カブラヤガ 6kg／10a 作条処理土壌混和 定植時／1回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ガードベイトA](#) <3A> 【3kg／10a 株元散布 生育初期／6回】
 - ・ [アクセルベイト](#) <22B> 【3～6kg／10a 株元散布 生育期／6回】

ヨトウムシ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 若齢幼虫のうちに防除する。
- 2 施設や簡易パイプ組みにより目合い4mm以下のネットで被覆し、成虫の飛来を防ぐ。
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アファーム乳剤](#) <6> 【1000倍 発生初期／5回】
 - ・ [コテツフロアブル 劇](#) <13>
 - 【花き類・観葉植物(除きく、ストック) 2000倍 発生初期／2回】
 - ・ [プレオフロアブル](#) <UN> 【ハスモンヨトウ 1000倍 発生初期／4回】
 - ・ [フェニックス顆粒水和剤](#) <28>
 - 【花き類・観葉植物(除きく、りんどう) ハスモンヨトウ 2000倍 発生初期／4回】
 - ・ [アディオン乳剤](#) <3A>
 - 【花き類・観葉植物(除はばたん) 2000倍 発生初期／6回】
 - ・ [マッチ乳剤](#) <15>

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合がありますので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

—花き類・観葉植物—

- 【花き類・観葉植物(除きく) ハスモンヨトウ 2000倍 発生初期／5回】
 ・ [オルトラン水和剤](#) <1 B> 【1000倍 発生初期／5回】

ハマキムシ類

防除方法

- 1 綴り葉ごとほ場外へ持ち出し処分する。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 ・ [アディオン乳剤](#) <3 A>
 【花き類・観葉植物(除はばたん) 2000倍 発生初期／6回】

アオムシ

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 ・ [オルトラン水和剤](#) <1 B> 【1000倍 発生初期／5回】

ハモグリバエ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 施設栽培では、開口部を目合い0.8mm以下のネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。
- 2 ビニル等のマルチングにより土中で蛹化するのを防ぐ。
- 3 ほ場周辺の除草を行う。
- 4 被害株や葉、残渣は、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 ・ [アフーム乳剤](#) <6> 【1000倍 発生初期／5回】
 ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) <4 A>
 【花き類・観葉植物(除きく) 1000倍 かん注 1L／m² 発生初期／5回】
 ・ [アクタラ顆粒水溶剤](#) <4 A>
 【花き類・観葉植物(宿根アスター、トルコギキョウ、きくを除く) 2000倍 発生初期／6回】
 ・ [ディアナSC](#) <5>
 【花き類・観葉植物(除りんどう) 2500～5000倍 発生初期／2回】

クロバネキノコバエ類

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 ・ [ディアナSC](#) <5> 【花き類・観葉植物(除りんどう) 2500倍 発生初期／2回】

ハダニ類

留意事項

- 注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、使用時には登録を確認してください。
- 注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合がありますので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

—花き類・観葉植物—

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 育苗時の防除を徹底する。
- 2 ほ場内や周辺の除草を行う。
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [カネマイトフロアブル](#) <20B>
【花き類・観葉植物(除ばら、きく、カーネーション、デルフィニウム) 1000倍
—/1回】
 - ・ [バロックフロアブル](#) <10B> 【2000倍 発生初期/1回】
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 <13>
【花き類・観葉植物(除きく、ストック) 2000倍 発生初期/2回】
 - ・ [ダニトロンフロアブル](#) <21A> 【1000~2000倍 発生初期/1回】
 - ・ [ダニオーテフロアブル](#) <33> 【2000倍 発生初期/2回】
 - ・ [マラソン乳剤](#) <1B> 【2000~3000倍 発生初期/6回】
 - ・ [アグリメック](#) 劇 <6> 【花き類・観葉植物(除ガーベラ) 500倍 発生初期/5回】
 - ・ [ダニサラバフロアブル](#) <25A> 【1000倍 発生初期/2回】
 - ・ [ニッソラン水和剤](#) <10A> 【2000~3000倍 —/2回】
 - ・ [ダブルフェースフロアブル](#) <25B> <21A> 【2000倍 発生初期/1回】
 - ・ [ポリオキシシAL水溶剤](#) <—> 【2500倍 発生初期/8回】
 - ・ [エコピタ液剤](#) <—> 【100倍 発生初期/—】
 - ・ [サンクリスタル乳剤](#) <—> 【600倍 —/—】
 - ・ [サンヨール](#) <—>
【花き類・観葉植物(除きく、ばら、ペチュニア、スターチス、プリムラ、パンジー)
500倍 発生初期/8回】
 - ・ [粘着くん液剤](#) <—> 【100倍 発生初期/—】

ネコブセンチュウ

防除方法

- 1 土壌消毒を行う。(XⅢ土壌消毒 参照)
 - ・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 <8F>
【20~30kg/10a は種または植付前/1回】
 - ・ [ネマキック粒剤](#) <1B>
【花き類・観葉植物(除きく) 20kg/10a 全面土壌混和
植付前または定植前/1回】

ナメクジ類、カタツムリ類

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を施用する。
 - ・ [スラゴ](#) <—>
【ナメクジ類、カタツムリ類、アフリカマイマイ、ヒメリンゴマイマイが加害する農作物等

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

—花き類・観葉植物—

ナメクジ類、カタツムリ類、アフリカマイマイ及びヒメリゴマイマイの発生あるいは加害を受けた場所または株元に配置 温室、ハウス、ほ場、花壇 1～5g/m²

発生時／—】

- ・ [ナメクリーン3](#) <—> 【1～3kg/10a 株元散布 —/6回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合がありますので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。